

Part 4
1

パターンや回転ツールで描くグラフィカルなイラスト

ひとつの小さなパーツを、パターンスウォッチやリフレクト、回転などのツールや機能を活用して自然な配置で反復させることで、イラストレーションに視覚的な効果を与えていこう。

作例・文=AQUINON / 20001 URL:http://www.20001.jp/ 使用バージョン Adobe Illustrator CS



装飾部分の見せ方によって、メインのイラストの存在感が変わってくる。そのため装飾となるパーツの作成は、手を抜かない作業だ。一見複雑に見えるパーツでも、パターンや回転などさまざまなツールを使えば簡単に作成できる。それらを感覚的に組み合わせることで、グラフィカルな作品に仕上げることができる。手描きではできない表現も可能だ。

作例で使用したおもな機能

● 回転ツール

option [Alt] キーを押しながらパーツを回転ツールで回転させ、角度のバリエーションをつくりながらコピーすることで、ランダムでグラフィカルなイラストが描ける。円形状にパーツを並べて左右対称のイラストを描くときにも便利なツールだ。

● パターンスウォッチ

イラストの塗り部分に使うことで、視覚的なメリハリが付けられる。手描きでは難しい効果が簡単に出来る。

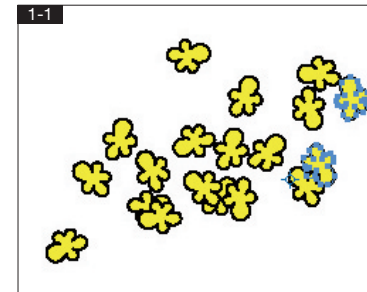
[アキノ]アーティスト、イラストレーター。アートユニットでもあり、音楽レーベルでもある20001 (Niman-ichi) 主宰。イラストを使ったオリジナルアパレルブランドや音楽活動「ビーチタッチ」をスタート。

PROFILE

A 回転ツールでパーツをランダムに配置

option [Alt] キーと回転ツールを使い、細かいパーツをランダムに反復させることで、自然でグラフィカルなイラストに仕上げる。

① パーツを回転させながらコピーしていく



まず反復させたいイラスト(ここではポップコーン)を選択ツールで選び、コピー&ペースト機能のショートカットであるoption [Alt] キーを押しながら、回転ツールで回転させる。なるべく多く角度のバリエーションを付けながら、目見で位置を決めていく。そうすると、より自然でランダムな配置になる。回転ツールの中心点を変えながら、納得のいく表現になるまで試そう。適当なパーツを2、3個ずつかためて選択したりしながらこの作業を繰り返し、パーツを増やしていく 1-1

② バランスを見ながら配置する

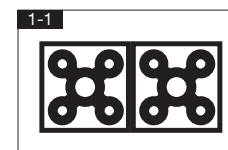


出来上がったらグループ化してコピーし、描いたイラスト上に配置する。ここでも全体のバランスを見ながら、回転させたり、いらぬパーツを削除したりして位置の調整をする 2-1

B 図形やアイコンを塗りに設定する

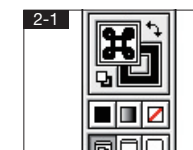
描いた図形を「パターン設定」し、「スウォッチ」に保存して塗りの設定として使う。パターンをみの拡大や回転もできる。

① パターンにしたい図形を作成する



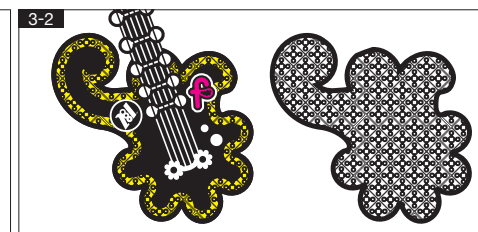
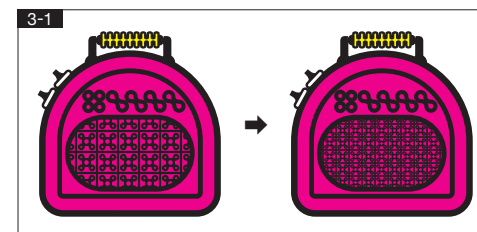
外枠のついた図形をパターンにする場合、図形が隣接して反復されるので、そのままではとなり合った罫線は倍の太さになってしまう 1-1。外側の罫の太さを半分にするによって、全体の罫線の太さを同じにできる。ここでは、外側の正方形の罫を1pt、内側の図形を2ptとした

② パターン設定して図形をスウォッチに保存



図形を選択した状態で、編集メニュー「パターン設定...」を選ぶ。新規スウォッチダイアログボックスで名前を付けて保存すると、図形はスウォッチパネルに保存される。パターンとして使いたいときは、塗りの設定にこの新しいスウォッチを選択すればよい 2-1

③ パターンを拡大・縮小したり回転したりする

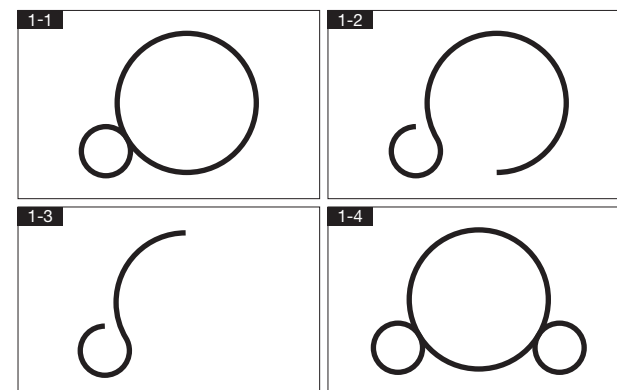


パターンを設定された図形を選択して拡大・縮小ツールをダブルクリックし、オプションダイアログボックスで[オプション]の[パターン]にチェックをつける([オブジェクト]にはチェックをつけない)。拡大・縮小率を入力して[OK]すれば、パターンのビジュアルだけが拡大・縮小されるので、表現の幅を広げることができる 3-1。回転ツールを利用して同様に[パターン]のみにチェックをつけると、パターンだけが回転される 3-2

C 円を利用して左右対称のイラストをつくる

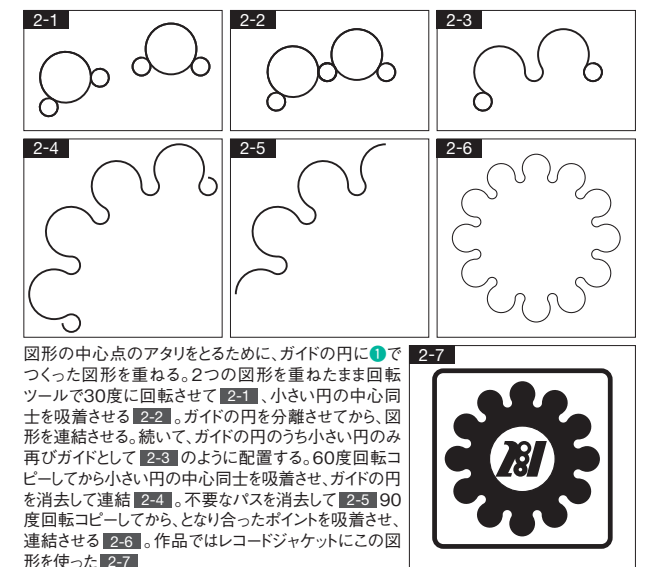
円をガイドにしなが回転ツールで左右対称のイラストをつくる。パーツを反復させる際、となりのパーツと自然につながるようにする。

① 反復させるパーツを作成する



反復させてもなめらかにつながるようなパーツを作成する。円を大小2つ描いて外接させる 1-1。あとで中心点をとるガイドに使うので、別にもうひとつコピーしておく。2つの円が接したバスの中心あたりをはさみツールで切断し、不要なバスを消して 1-2 のような形状にする。バスがつながる部分の重なったポイント2つを選択し、⌘ (Ctrl) + J キーで[角を滑らかにする]を選んで連結させておく。できた図形の頂点のアンカーポイントをはさみツールで切り、不要な右側の半円を消去する 1-3。リフレクトツールで垂直コピーし、頂点のアンカーポイントで連結する。中心点のガイド用にコピーしておいた2つの円の図形も、同様に半分切ってからリフレクトツールで垂直コピーし、3つの円の状態でしておく 1-4

② ガイドの円で中心点のアタリをとって回転コピー



図形の中心点のアタリをとるために、ガイドの円に ① でつくった図形を重ねる。2つの図形を重ねたまま回転ツールで30度に回転させて 2-1、小さい円の中心同士を吸着させる 2-2。ガイドの円を分離させてから、図形を連結させる。続いて、ガイドの円のうち小さい円のみ再びガイドとして 2-3 のように配置する。60度回転コピーしてから小さい円の中心同士を吸着させ、ガイドの円を消去して連結 2-4。不要なバスを消去して 2-5、90度回転コピーしてから、となり合ったポイントを吸着させ、連結させる 2-6。作品ではレコードジャケットにこの図形を使った 2-7